

登録文化財(建造物)



のぐちびょういんかんりとう
野口病院管理棟

野口中町 野口記念会
国登録有形文化財（建造物）
平成8年12月20日登録

この建物は、北九州の財界人で当時石炭王といわれた佐藤慶太郎氏が、バセドー病の世界的権威で自身の主治医であった野口雄三郎のために、20万円を投じて建設した建物。昭和61年（1986）に病院は近

代的に生まれ変わったが、この建物はそのまま残すことになり、使用に耐えない部分は当時と同じ工法、材料を用い見事に改修した。現在は管理棟として使用しており、今日まで、まちなみ景観のシンボルとして親しまれている。

この建物の最も印象的な部分は、東側にある尖塔屋根とそれを軸とする左右対称に配置されたファサードによる外観であり、落ち着いた品格の中にしゃれた洋風の雰囲気を作り出している。構造は木造モルタル2階建・洋瓦葺で、屋根の下部分はハーフティンバーとし、その間の壁は白漆喰とし、屋根が骨組の上に乗ったイメージを作り出している。

（文化庁データベース、『別府市誌 2003』、三ヶ尻 勝）